

令和7年度 全国学力・学習状況調査

大仙市分析結果



I 実施の状況

- 1 実施目的 児童生徒の学力維持向上及び学習状況の把握
- 2 実施学年 小学校6年生、中学校3年生
- 3 実施教科 国語、算数・数学、理科
- 4 調査内容 ①教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）
知識・技能等に関する問題と活用する力等に関する問題
②生活習慣や学習環境に関する質問紙調査
 - ・児童生徒に対する調査
 - ・学校に対する調査
- 5 実施期日 令和7年4月14日（月）
ただし、中学校理科は14日（月）～17日（木）
- 6 調査方式 悉皆調査
- 7 調査対象 全国（国公立小学校） 18,639校（実施率 99.2%…… 949,216人）
秋田県公立小学校 168校（実施率 100.0%…… 5,683人）
全国（国公立中学校） 10,194校（実施率 94.3%…… 896,895人）
秋田県公立中学校 105校（実施率 99.0%…… 5,866人）

I 実施の状況

令和7年度中学校理科の CBT 問題の構成について

- 公開問題と非公開問題を組み合わせて構成。
- 公開問題には全日程に共通する問題と実施日により異なる問題があり、いずれも授業改善に向けたメッセージを発信。同じ調査日に実施する生徒は同じ公開問題のセットを解く。
- 非公開問題は幅広い内容・難易度等の問題を出題しており、生徒ごとに異なる問題を解く。
- 生徒一人が解く問題数は26問。このうち、公開問題が10問、非公開問題は16問。

下の 1 ~ 9 は調査問題の各問題番号に相当

	公開問題 (合計22問)				+	非公開問題	生徒一人が 解く問題数	
	全日程に 共通する問題 (6問)			実施日により 異なる問題 (16問)				
4/14(月) 1日目	1 (1)~(6)	⑥問	+	2 9 (1)(2)(1)(2)	④問	+	⑩問	= ②⑥問
4/15(火) 2日目	1 (1)~(6)	⑥問	+	2 9 (1)(2)(1)(2)	④問	+	⑩問	= ②⑥問
4/16(水) 3日目	1 (1)~(6)	⑥問	+	2 9 (1)(2)(1)(2)	④問	+	⑩問	= ②⑥問
4/17(木) 4日目	1 (1)~(6)	⑥問	+	2 9 (1)(2)(1)(2)	④問	+	⑩問	= ②⑥問

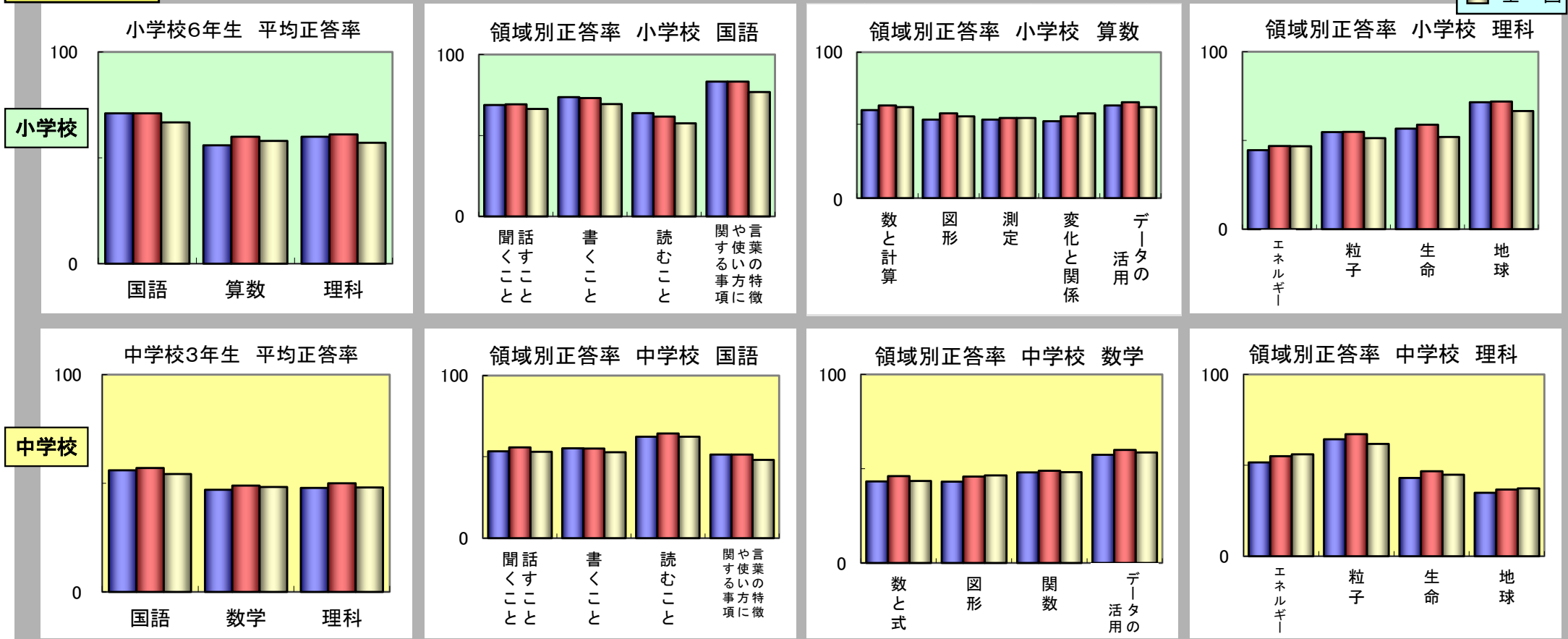
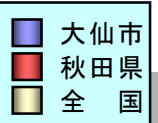
Ⅱ 教科に関する調査結果

1 概要

- ・国語は、小学校、中学校ともに全国の平均正答率を上回っている。算数・数学は、小学校、中学校ともに全国の平均正答率を下回っている。理科は、小学校で全国の平均正答率を上回り、中学校では全国の平均正答率をやや下回っている。
- ・教科別・内容/領域別平均正答率の状況から見ると、国語は小学校、中学校ともに全ての内容で全国平均を上回っている。算数・数学は、小学校で「データの活用」以外で全国平均を下回っている。中学校は、全ての領域で全国平均を下回っている。理科は、小学校では、「エネルギー」以外で全国平均を上回っている。中学校では、「粒子」以外で全国平均を下回っている。

2 結果

【資料1】教科別・領域別平均正答率の状況



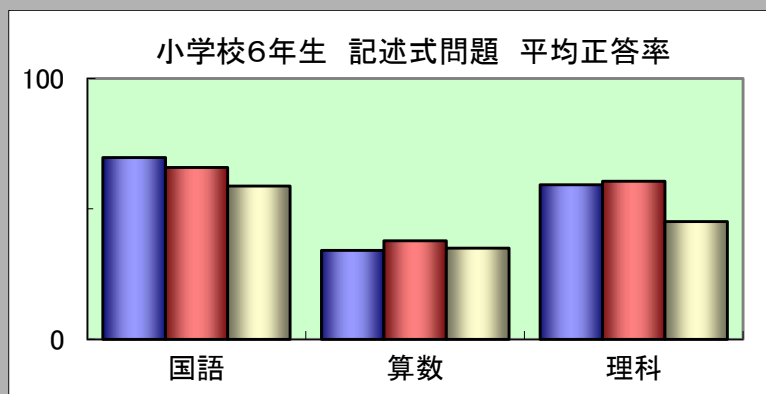
Ⅲ 教科に関する調査結果の考察

1 傾向

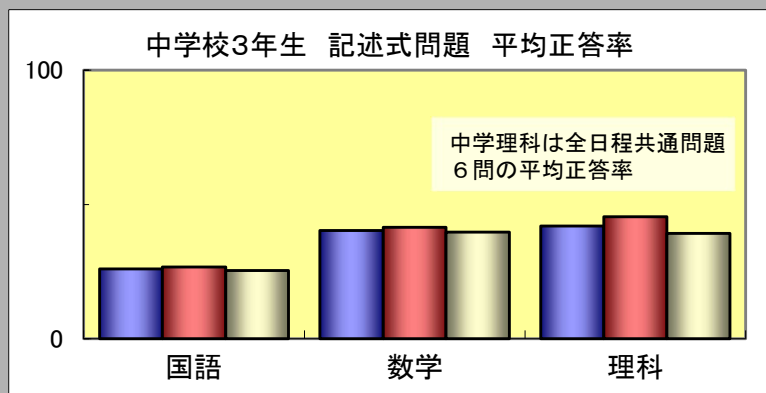
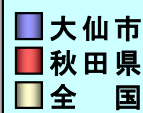
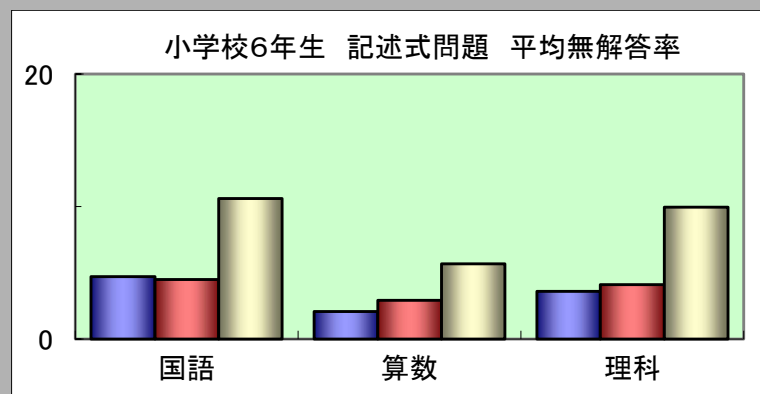
◎学力向上の基盤となる基本的な学習習慣が定着し、児童生徒は最後まで問題に粘り強く取り組んでいる。

- ・記述式問題については、小学校では、国語が全国、県を上回り、算数は全国、県を下回っている。理科は全国を上回っているが、県をやや下回っている。中学校は国語、数学共に県や全国の平均正答率とほぼ同等、理科は全国をやや上回っているが県を下回っている。
- ・無解答率については、小学校、中学校ともに算数・数学、理科においては概ね良好な状況と言える。国語が県をわずかに上回った。

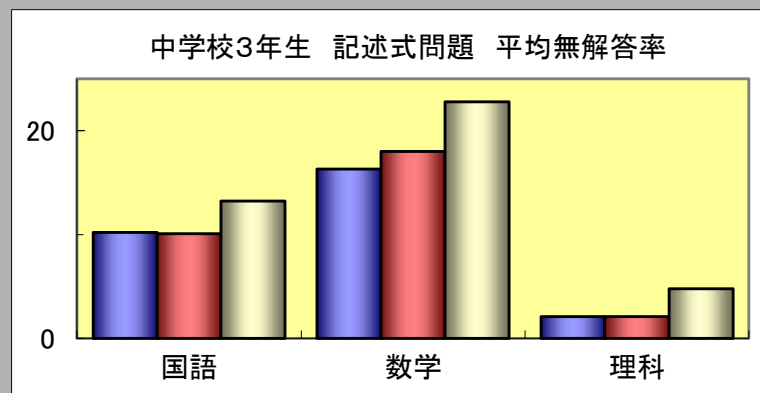
【資料2】記述式問題 平均正答率・無解答率の状況



小学校



中学校



Ⅲ 教科に関する調査結果の考察

2 要因

① 児童生徒が学習に集中し、落ち着いてじっくり考えることができる環境が構築されている。

- 各学校では基本的な学習習慣の確立と、失敗が受容される温かい人間関係づくりが進められている。
- 授業の中で自分の考えや意見を書いたり、発表したりするなどの機会と場が積極的に取り入れられている。

② 児童生徒の、基礎的・基本的な学習内容の定着を目指した取組が行われている。

- 復習を中心とした家庭学習の継続と充実が図られ、学校では基礎的・基本的な学習内容の定着を目指した基礎テスト等を実施している。
- ティームティーチングや少人数指導等、児童生徒の実態に応じた指導形態の工夫が効果的に行われている。

③ 児童生徒の、活用する力を育成する授業改善が進められている。

- 考えを発表したり話し合ったりする活動を取り入れた児童生徒主体の対話的な授業や、目的に応じて文章を読んだり、根拠を基に説明したりする授業等、思考力、判断力、表現力等の育成につながる授業が積極的に進められている。

④ 各教科において創意工夫を生かした特色ある教育活動が展開されている。

- 小学校における一部教科担任制の活用や1人1台端末の活用、小中連携による9年間を見通した指導等により、学習活動が充実し、学びの円滑な接続が図られている。
- 教育専門監の活用や教科担任制による魅力ある授業、地域人材等の活用による専門的な学習活動が行われている。

⑤ 各学校の取組を支援する県・市の施策を積極的に活用し、推進している。

- 学習状況調査事業や、あきたの教育力充実事業等、県の学力向上推進事業を積極的に活用している。
- コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進によって、地域人材やボランティア等との連携を図っている。
- 各校のPTA及び市PTA連合会等を通じて、学力向上・基本的生活習慣の確立に向けた取組について保護者の理解・啓発を図っている。
- 市独自の施策を推進している。
 - ・心ふれあうさわやか大仙事業「中学生サミット」の実施、体験的学習の時間支援事業の実施、学校生活支援員・複式学級支援員・学校サポーター等の配置
 - ・市教職員研究集会、教職員研修会の開催
 - ・学校訪問の実施（教育委員会訪問、指導主事訪問等）
 - ・国際教養大学、県立高等学校、県立特別支援学校等との交流・連携
 - ・「大仙ふるさと博士育成」事業、大仙グローバルジュニア育成事業、「読書通帳」事業、人権ユニバーサル事業の実施
 - ・大仙教育メソッドに基づく各種連携の推進

Ⅲ 教科に関する調査結果の考察

3 課題

- 小学校は、国語の「話すこと・聞くこと」に課題がある。算数の「変化と関係」の領域では、全国平均正答率を大きく下回る問題がある。
- 中学校の国語においては、「情報の扱い方に関する事項」について県の平均正答率を下回る問題がある。意見と根拠など情報と情報との関係性を理解することが苦手である。数学の「図形」領域において、全国より低く県と同様に平均正答率が低い問題がある。

課題がみられた問題例（国語）

※14問中一番低い平均正答率の問題

【小学校国語 ③ 三（1）】
 全国平均正答率 40.8%
 県平均正答率 41.3%

○目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる。

＝国語の課題と改善に向けて(小学校)＝
 ※県の平均正答率を下回った問題

■R7年度の調査結果に基づく主な課題

・「情報と情報の関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと」に課題が見られた。

□指導改善の主なポイント

・話し合いの内容について、質問内容や予想、結果等、語句の種類に応じて丸や四角で囲んだり、関連する語句同士を線でつないだりして、情報を整理することが重要である。ICT等を活用し、個々の児童が整理したものを互いに比べ、検討し合う学習活動等が効果的である。

※全国及び県の平均正答率を下回った問題

【中学校国語 ③ 四 ④ 二】
 全国平均正答率 17.1% 30.1%
 県平均正答率 18.2% 31.9%

- 文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる。
- 読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる。

＝国語の課題と改善に向けて(中学校)＝

■R7年度の調査結果に基づく主な課題

・「資料や機器を用いるなどして、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること」「文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えること」に課題が見られた。

□指導改善の主なポイント

・自分の考えを相手に分かりやすく伝えるためには、目的や状況、相手に応じて、資料やICT機器を用いて話すことが効果的である。発表する際には、要点や根拠を明らかにしたり、説明を補足したり、中心となることを強調したりするなどの表現や、話し言葉と書き言葉の特徴に着目させたい。
 ・文章の構成や展開、表現の効果について考える際には、根拠を明確にすることが重要である。自分の考えを書いたり発表したりする学習において、自分の考えを支える根拠を明らかにして伝えさせたり、相手の考えを支える根拠に着目させたりすることが考えられる。

Ⅲ 教科に関する調査結果の考察

課題がみられた問題例（算数・数学）

※県の平均正答率を下回った問題

【小学校算数 ③(2)】

全国平均正答率 23.0%

県平均正答率 24.7%

○分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる。

$\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ の計算は、 $\frac{1}{5}$ をもとにする。2 + 1 を使
考えることができます。

※全国及び県の平均正答率を下回った問題

【小学校算数 ④(4)】

全国平均正答率 40.9%

県平均正答率 37.1%

○「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる。

ハンドソープを袋になるまで使ったら、例プッシュ
おさひ
ることができるのかを知りたいです。

＝算数の課題と改善に向けて(小学校)＝

※県の平均正答率を下回った問題

■ R7年度の調査結果に基づく主な課題

- ・「もとにする数」(この場合単位分数)の意味理解が十分ではない。
- ・通分はできているが、加数と被加数がそれぞれ共通する単位分数の幾つ分かを記述できていない。
- ・「10%増量」について、10%を0.1と表すことはできているが、求めるものが「増量分」なのか「増量後の量」なのか捉えられていない。

□ 指導改善の主なポイント

- ・異分母分数の加法については、例えば数直線や面積図を用いるなどして共通する単位を見だし、分母をそろえることで、単位分数の幾つ分とみて考えることができるようにすることが重要である。
- ・基準量と比較量、割合の関係を正しく捉えるために、言葉や図、式を関係付けながら数量の関係を考察できるようにすることが重要である。
- ・授業においては誤答を活用するなど、「なぜそのような答えになったのか」を考えることでつまずきの解消につなげることが大切である。

※全国及び県の平均正答率を下回った問題

【中学校数学 ⑥(2) ⑨(2)】

全国平均正答率 25.7% 36.3%

県平均正答率 24.4% 34.5%

○式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる。

○統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することができるかどうかをみる。

次の①から④までの各問いに答えなさい。

②) 連続する2つの3の倍数の和は、9の倍数になるとは限らない

＝数学の課題と改善に向けて(中学校)＝

※県の平均正答率を下回った問題

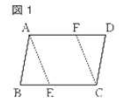
■ R7年度の調査結果に基づく主な課題

- ・奇数や偶数、倍数などの意味理解と、それを文字式で表す力や読み取る力に課題が見られる。
- ・条件を変えても変わらない関係や、条件を変えると変わる関係を見だし、統合的・発展的に考察することに課題が見られる。

□ 指導改善の主なポイント

- ・授業では他者の考えた式の意味を読み取って説明させる活動を取り入れるなど、他者の考えに主体的に関わりながら式の意味を読み取る力や数学的に表現する力を高めていくことが重要である。
- ・証明したことを基に条件を変えて考察する場面を設定し、元の証明を評価・改善して部分的に書き直すことで、新たな事象を証明する活動を取り入れることが考えられる。

⑨) 右の図1のように、平行四辺形ABCDの辺BC、DA上に、BE = DFとなる点E、Fをそれぞれとり、四角形AECFは平行四辺形になることを証明せよ。このことは、次のように証明できる。



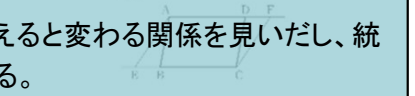
証明1

平行四辺形の向かい合う辺は平行だから、
AD // BC
よって、 $\angle AFE = \angle BCE$ ①
平行四辺形の向かい合う辺は等しいから、
AD = BC②
よって、
DF = BE③
よって、
AD - DF = BC - BE④
よって、
AF = EC⑤

①、⑤より、
1組の向かい合う辺が平行でその長さが等しいから、
四角形AECFは平行四辺形である。

②) 次の図2のように、平行四辺形ABCDの辺BC、ADを延長した直線
上に、BE = DFとなる点E、Fをそれぞれとり、四角形AECFは
平行四辺形になります。このことは、次のページの証明1の一部を
書き直して証明せよ。

図2



平行四辺形の向かい合う辺は平行だから、
AD // BC
よって、 $\angle AFE = \angle BCE$ ①
よって、
DF = BE②
よって、
AD - DF = BC - BE③
よって、
AF = EC⑤

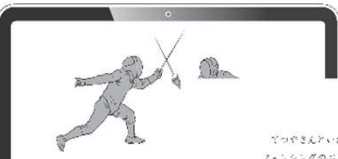
①、⑤より、
1組の向かい合う辺が平行でその長さが等しいから、
四角形AECFは平行四辺形である。

Ⅲ 教科に関する調査結果の考察

課題がみられた問題例（理科）

2

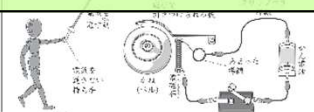
でっやさんといぬりさん、フィジキングについて調べています。



でっやさんといぬりさん、これまでで学習した電気の性質を利用して、フィジキングのおもちゃをつくることを考えています。

※全国及び県と同様に、平均正答率の低い問題
 【小学校理科 2(1) 2(2)】
 全国平均正答率 10.6% 42.9%
 県平均正答率 11.3% 42.9%

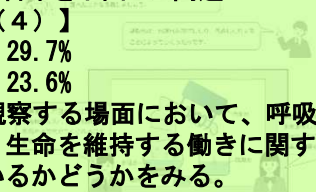
○身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかどうかをみる。



1

※全国と県の平均正答率を下回った問題
 【中学校理科 1(4)】
 全国平均正答率 29.7%
 県平均正答率 23.6%

○水の中の生物を観察する場面において、呼吸を行う生物について問うことで、生命を維持する働きに関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる。



＝理科の課題と改善に向けて(小学校)＝

■R7年度の調査結果に基づく主な課題

- ・事実的な知識を既存の知識と関係付けたり活用したりする中で概念的に理解することについて課題がある。
- ・自然の事物・現象に働きかけることで得られた様々な情報について、要因や根拠を見いだすことや、観察、実験などの結果について、その傾向を見いだしたり、考察したりすることに課題がある。

□指導改善の主なポイント

- ・習得した知識を実際の自然の事物・現象と関連付けて説明できるようにするなど学習を通して得た知識を活用して、理解を深めることが重要である。
- ・結果の具体的な数値や、それを分析した内容などを根拠として表現する場を設定することが考えられる。児童が自らの言葉で考察し表現する時間を設けることで、学びを振り返ったり、修正したりする活動を充実させ、学んだことの意義を実感できるようにすることが重要である。

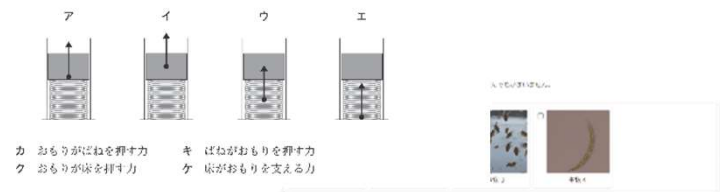
＝理科の課題と改善に向けて(中学校)＝

■R7年度の調査結果に基づく主な課題

- ・観察した水の中の生物が呼吸を行うかどうかについて、これまで理科で学習したことを活用して、生命を維持する働きに関する知識を概念として身に付けることに課題がある。

□指導改善の主なポイント

- ・生物の共通点や相違点を挙げ、生命を維持する働きに関する知識を基に、それらの特徴から様々な生物について考察する学習場面を設定することが考えられる。その際、直接観察することが難しい生物については、動画等を1人1台端末で視聴することも考えられる。



IV 学習環境に関する調査の結果

1 概要

○朝食に関わる項目は、小・中学校共に概ね良好な状況と言える。

●一方で、起床時刻については、小学校で全国や県を下回る結果となった。就寝時刻については、小・中学校共に県よりも低い結果になった。

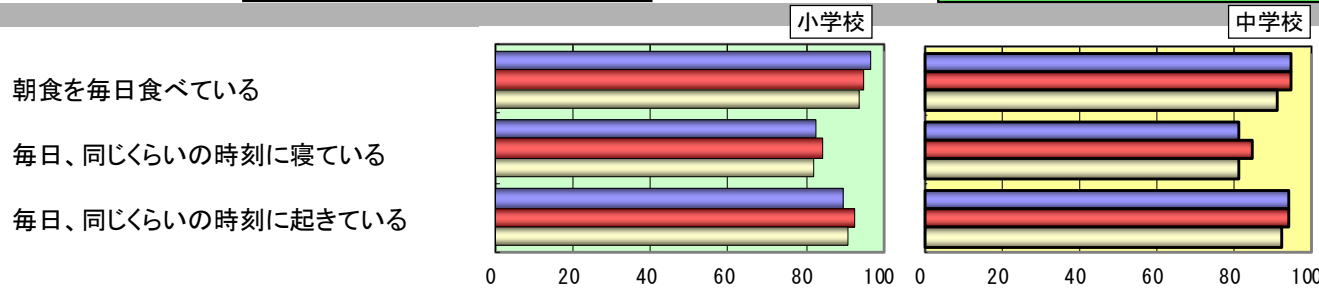
○児童生徒主体の授業づくりや、自己有用感をもたせる機会の充実によって、学ぶ意欲が高まるとともに、地域との交流や連携を基盤とした体験活動等を通して豊かな心が育まれている。

2 結果

2- (1) 生活習慣

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】児童生徒質問紙調査結果より

【資料3】 基本的な生活習慣等

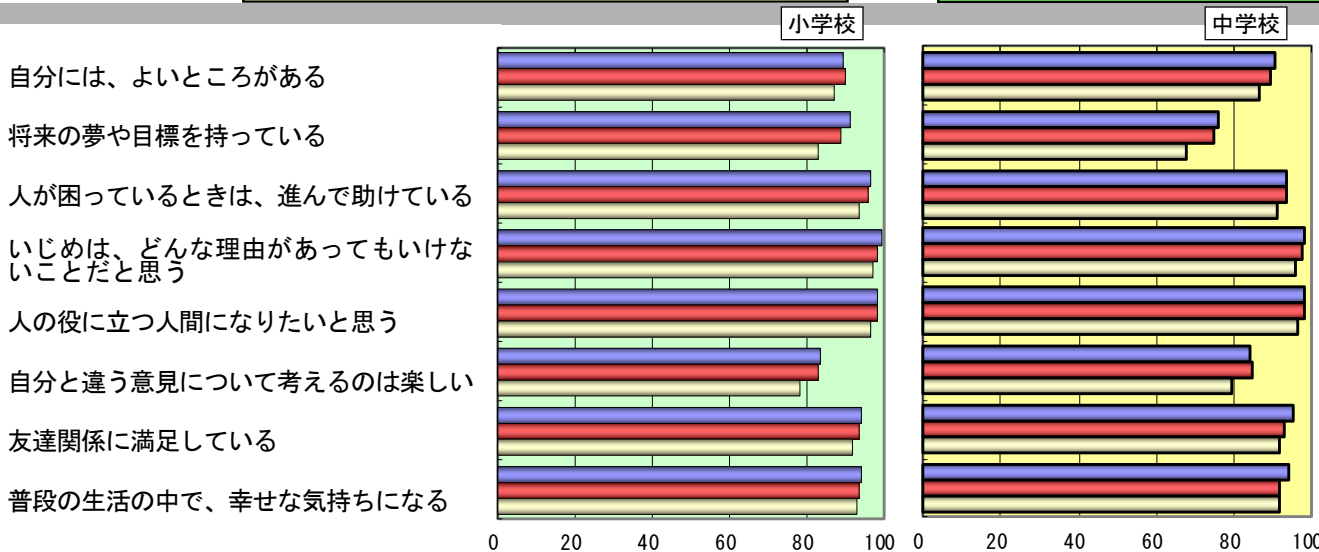


○朝食に関わる項目は、小・中学校共に良好な状況と言える。

●起床時刻については、小学校で全国や県を下回る結果となった。就寝時刻については、小・中学校共に県を下回る結果になった。規則正しい生活習慣の大切さについて、家庭にも繰り返し呼びかけながら、改善を図る必要がある。

2- (2) 自己有用感、規範意識等

【資料4】 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、将来への目標、等



○自己肯定感や自己有用感、夢や目標をもつことに関する項目において、小・中学校共に良好な状況にある。互いを認め合う学習環境の中で、児童生徒が目標をもって学んでいることの成果と捉えられる。

○いじめはどんなことがあっても許さない、人の役に立ちたいなどの思いやりの心も大変好ましい状況にある。また、友達関係への満足度や日常生活における幸福度も良好であり、小・中学校共に全国や県よりも高い。

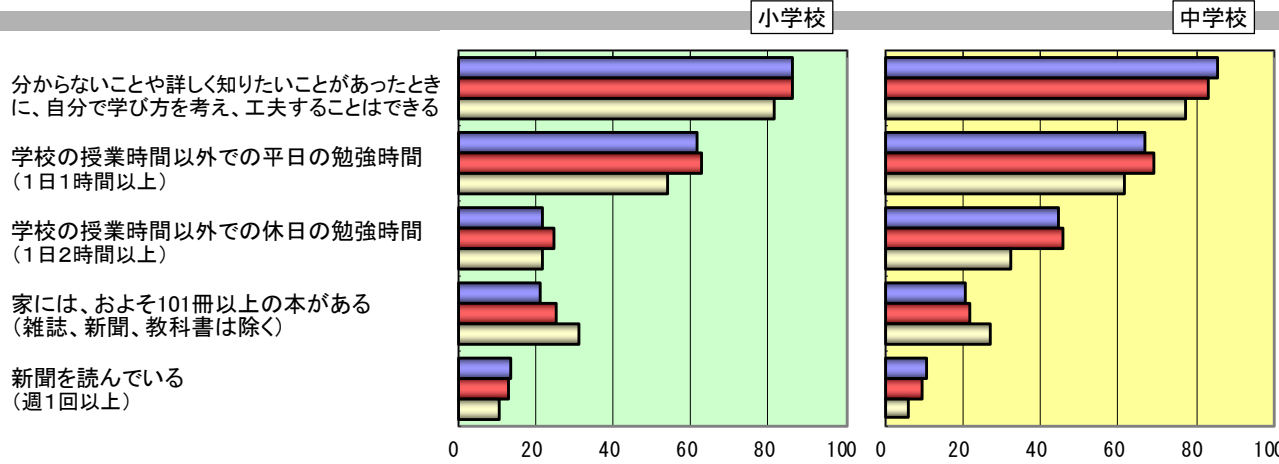


IV 学習環境に関する調査の結果

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】児童生徒質問紙調査結果より

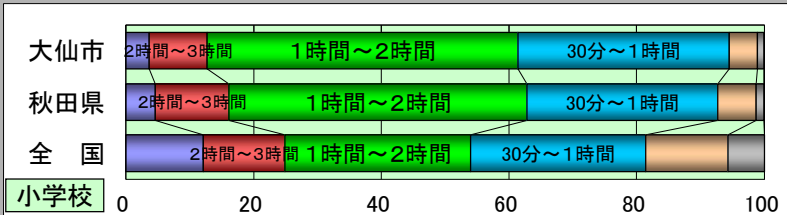
2 - (3) 学習習慣、学習環境等

【資料5】家庭学習の様子

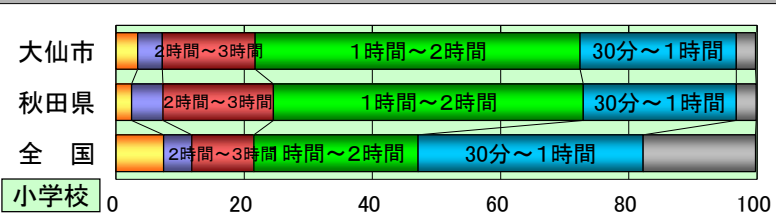


- 小・中学校共に自ら学ぼうとする姿勢が身に付いている。
- 平日及び休日の学習時間が「1時間以上」の割合は、全国の平均を上回るが、県の平均をやや下回る。「全くしない」の割合は少ない。家庭でも計画的に学習に取り組んでいる様子が見られる。
- 市の家庭学習時間のボリュームゾーンは小・中学校共に1～2時間である。2時間以上の割合は、小学校では全国や県を下回り、中学校では全国をやや上回るが、県を下回る。

【資料6-1】平日の学習時間



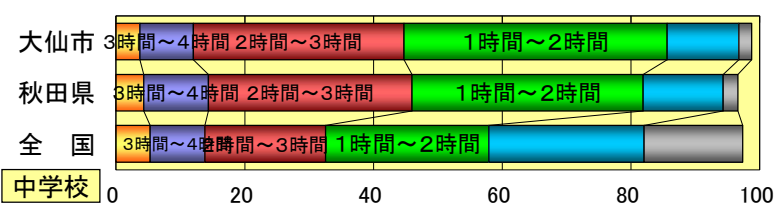
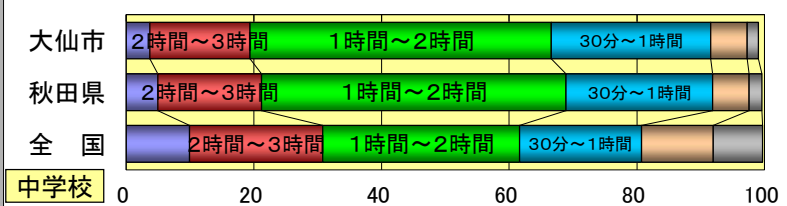
【資料6-2】休日の学習時間



【資料7】平均学習時間

【単位：分】

小学校	平日	前年度比	休日	前年度比
大仙市	100	0	120	0
秋田県	110	10	120	0
全国	110	0	100	0



中学校	平日	前年度比	休日	前年度比
大仙市	110	-10	150	0
秋田県	110	-10	140	-20
全国	110	-10	110	-10



IV 学習環境に関する調査の結果

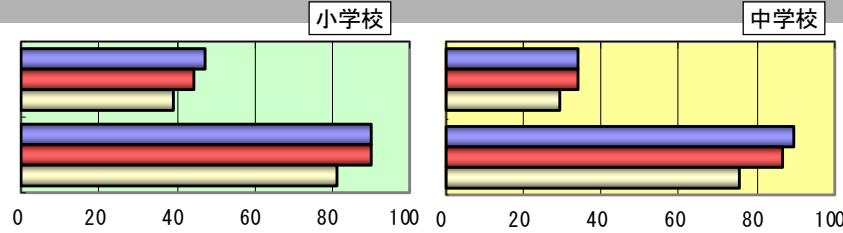
【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国と比較】児童生徒質問紙調査結果より

2-(4) 地域への関心

【資料8】地域や社会に関わる活動の状況等

地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがある

地域や社会をよくするために何かしてみたい



○地域の方々との関わりの中で学ぶ機会や、地域や社会をよくするために何かしてみたいという意欲については、小・中学校共に全国や県平均と同程度、または上回っている。大仙市の教育目標である「生きる力を育み、社会を支える想像力あふれる人づくり」に向けた取組の成果と言える。



2-(5) ICTを活用した学習状況

【資料9】PC・タブレットなどのICTを活用した学習状況

○前年度までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて

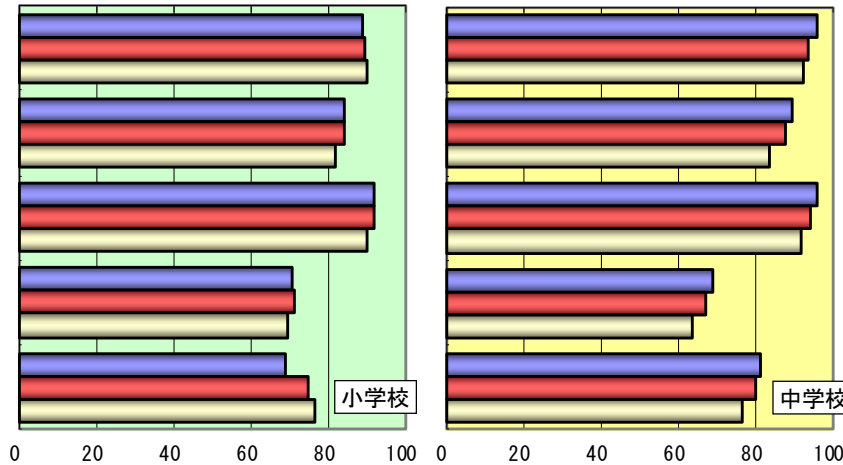
昨年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を週1回以上使用した

文章を作成する(文字、コメントを書くなど)ことができる

自分がインターネットを使って情報を収集する(検索する、調べるなど)ことができる

情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)ことができる

学校のプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができる



○ICTを活用した学習状況の項目では、全国と県の平均を上回っている項目が多い。小・中学校共に、文章の作成や、情報収集、情報整理に関する能力が身に付いてきている。
●小学校では、プレゼンテーションの作成において、全国や県を下回っている。今後は、個別最適な学びや協働的な学びの実現に向けた取組の中で、スライドを作成して発表するなど、学んだことを発信する力を高めることが重要である。

IV 学習環境に関する調査の結果

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県全国の比較】児童生徒質問紙調査結果より

2-(6) 学習状況

【資料10】「主体的・対話的で深い学び」の経験

○前年度までに受けた授業について

自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた

課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた

各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた

自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた

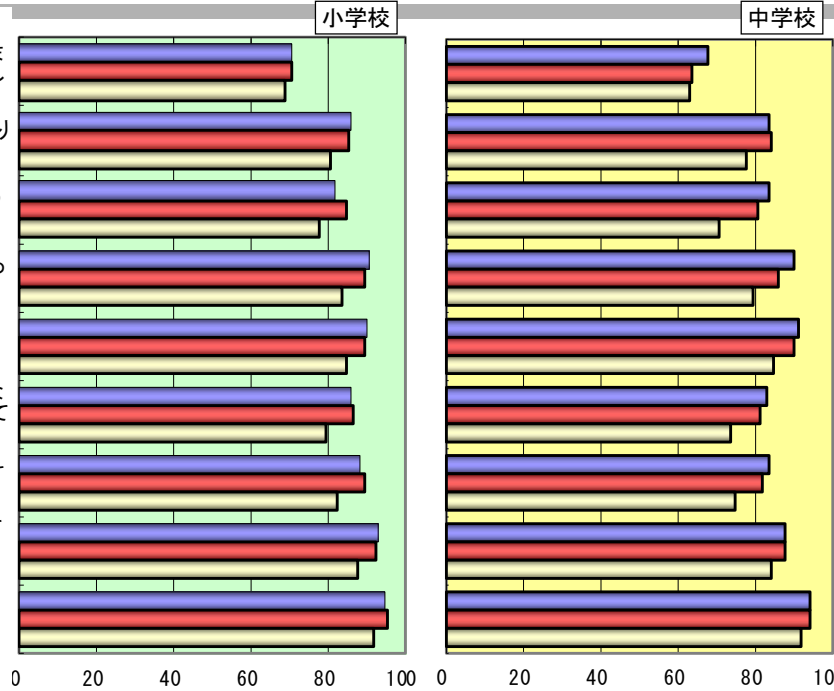
学級の友達(児童生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていた

学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていた

授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思った

先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思った

授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいた

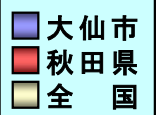


前年度までの授業について

○「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表した」という回答が、中学校では全国や県を上回っている。小学校では県と同程度で、全国を上回っている。

○「話し合う活動を通じて、考えを深めたり広げたりできている」という回答も、小・中学校ともに全国や県を上回っている。

○学んだことの活用や、実生活への関連付けについては、中学校において、全国や県を上回っている。



2-(7) 総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科 道徳

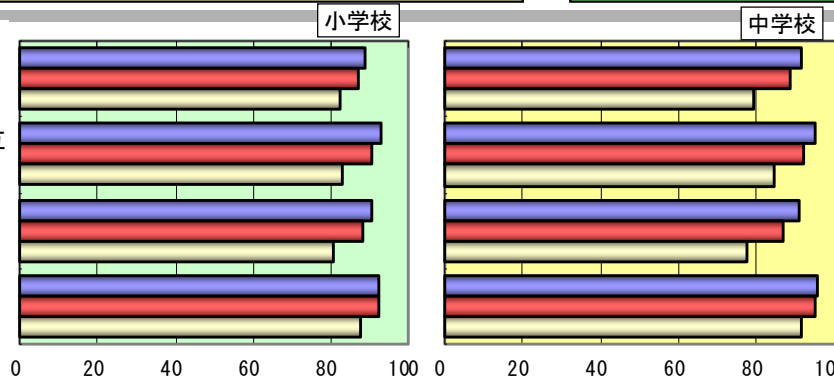
【資料11】総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科 道徳

総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる

学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている

学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる

道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる



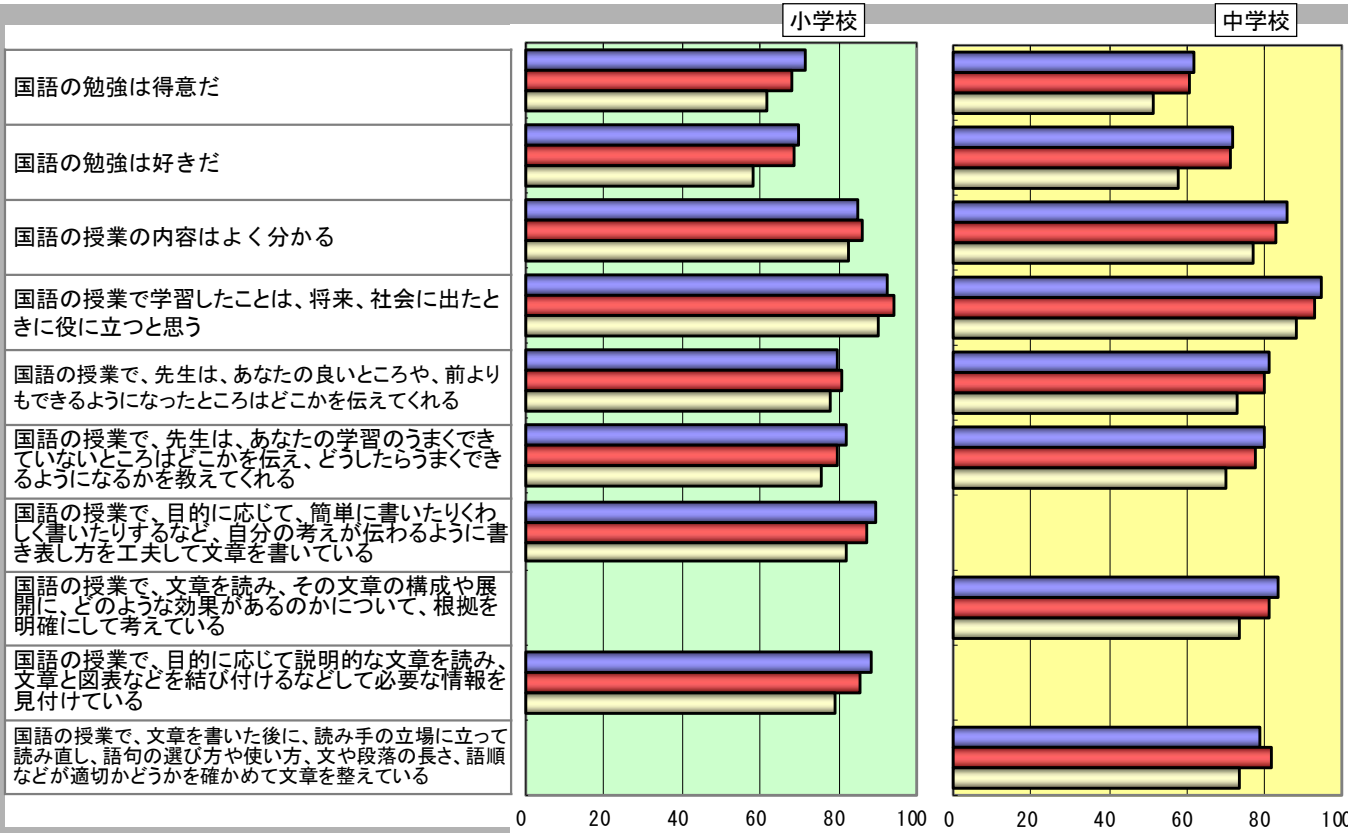
○総合的な学習の時間と学級活動への取組状況は、小・中学校ともに全国と県の平均を上回り、非常に良好な状況である。道徳では、小学校において、昨年度は県平均を下回ったが、今年度は同程度となった。

IV 学習環境に関する調査の結果

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】児童生徒質問紙調査結果より

2 - (8) 教科の学習に対する興味・関心や授業の理解度等

【資料12】国語の学習に対する意識



○国語に関するほぼ全ての質問項目において、全国や県の平均に比べて良好な状況にある。
 ○小・中学校共に全国や県の平均を上回っている項目は、
 ・「国語の勉強は好きだ」
 ・「国語の授業で、先生は、あなたの学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるよくなるかを教えてくれる」である。
 →このことから、小・中学校9年間を通じて、学習のつまずきに応じた学習指導や寄り添った支援によって、児童生徒の学びが積み重ねられていることがうかがえる。

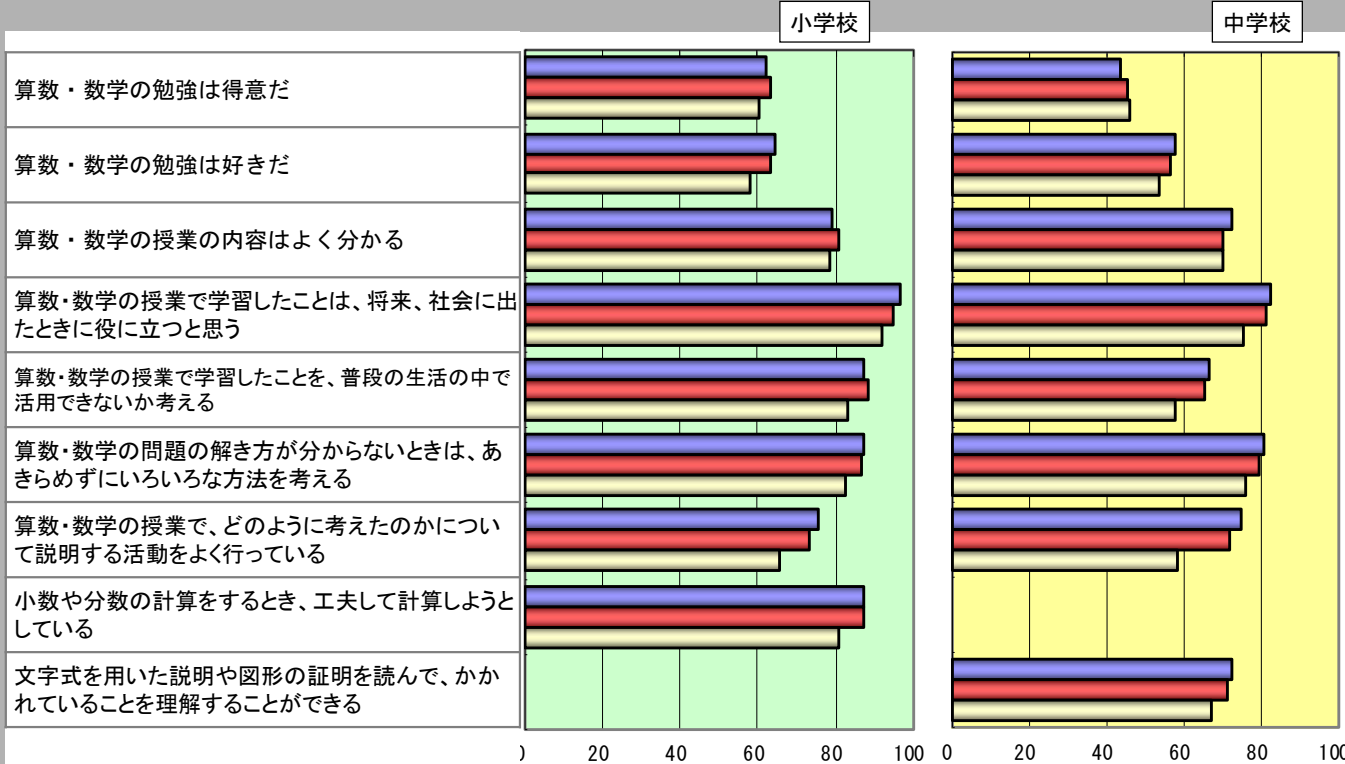
■ 大仙市
 ■ 秋田県
 ■ 全国

IV 学習環境に関する調査の結果

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国と比較】児童生徒質問紙調査結果より

2-(9) 教科の学習に対する興味・関心や授業の理解度等

【資料13】算数・数学の学習に対する意識



○算数・数学のほぼ全ての質問項目において、全国や県の平均に比べて概ね良好な状況にある。

○小・中学校共に全国や県の平均を上回っている項目は、

- ・算数・数学の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える。
- ・算数・数学の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしている。

→このことから、小・中学校9年間を通じて、粘り強く学習に取り組む態度が養われているとともに、多様な考えを出し合う授業が行われていることがうかがえる。

●「算数・数学の勉強は得意だ」の項目では、中学校は全国や県を下回っている。基礎・基本となる学習内容の定着度が、生徒の情意面に影響を与えていることが要因の一つに予想される。

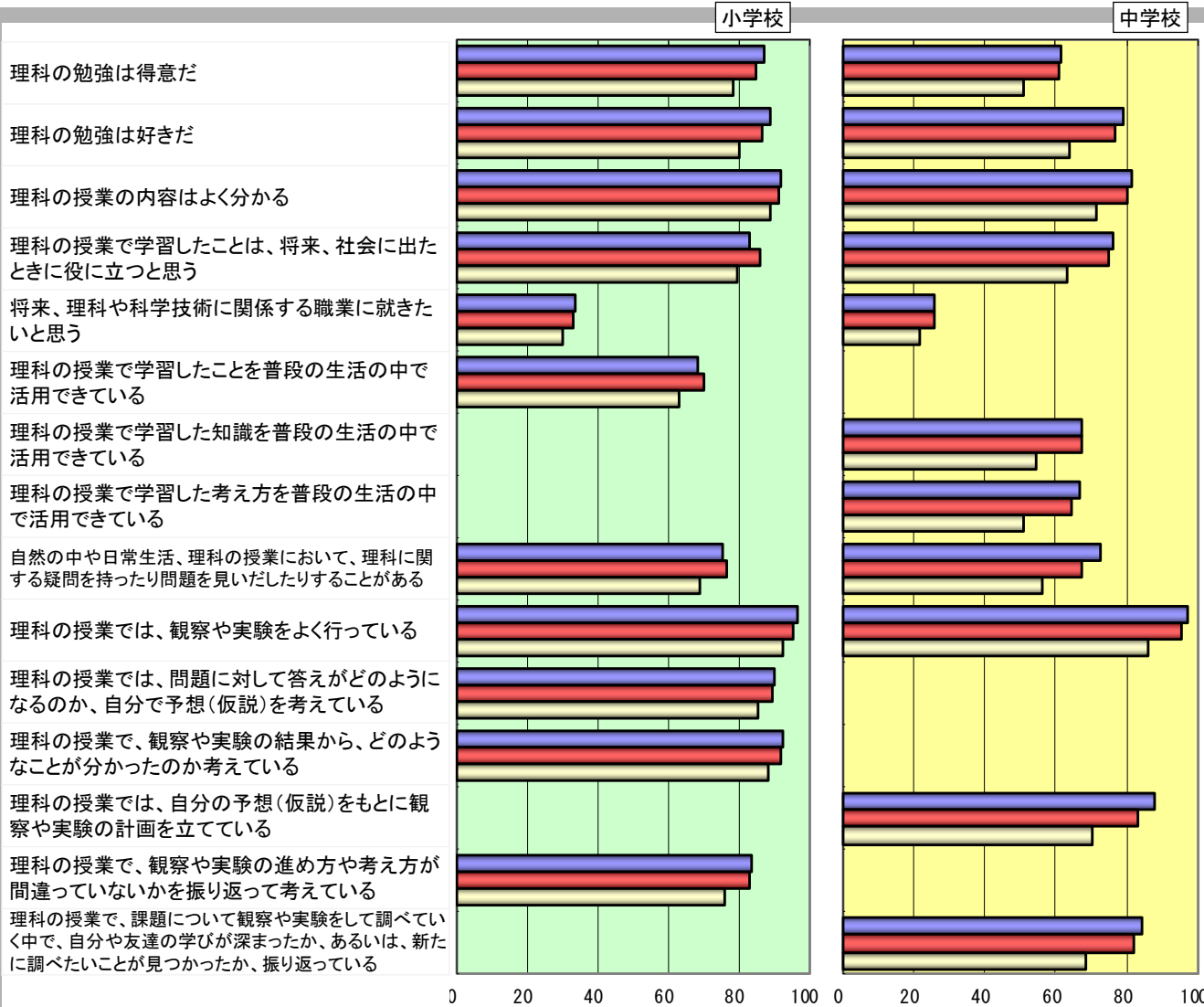
■ 大仙市
■ 秋田県
■ 全国

IV 学習環境に関する調査の結果

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国と比較】児童生徒質問紙調査結果より

2-(10) 教科の学習に対する興味・関心や授業の理解度等

【資料14】理科の学習に対する意識



○小・中学校理科に関するほぼ全ての質問項目において、全国や県の平均に比べ良好な状況にある。
 ●小学校では、理科の授業で学習したことが、「将来、社会に出たときに役に立つと思う」「普段の生活の中で活用できている」割合が県よりも低い。これまでも各校で実践されていることではあるが、実際の生活との関わりに自ら気付いたり、その有効性を実感したりできる学習場面の充実を図ることが求められる。

■大仙市
 ■秋田県
 ■全国

V 学習環境と学力調査との相関

1 概要

○教科の正答率と相関がみられた児童生徒質問紙の質問項目において、本市の状況は概ね良好である。

児童生徒質問紙において、質問紙の結果と科目の平均正答率との間に相関がみられた主な項目

◎は相関が強い項目

【生活習慣等】〈相関がみられた主な項目〉

- ◎朝食を毎日食べる（小学校算数、中学校数学）
- ◎毎日、同じくらいの時刻に寝ている（小学校理科、中学校数学）

【自己有用感・規範意識等】〈相関がみられた主な項目〉

- ◎人の役に立つ人間になりたい
（小学校算数、小学校理科、中学校数学）
- 学校に行くのは楽しい（小学校国語、中学校数学、中学校理科）
- 自分と違う意見について考えるのは楽しい
（小学校理科、中学校数学）

【ICTを活用した学習】〈相関がみられた主な項目〉

- ◎自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成することができる（全ての教科）
- ◎自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理することができる（小学校算数、小学校理科、中学校数学）

【主体的・対話的で深い学び】〈相関がみられた主な項目〉

- ◎友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができる（全ての教科）

【授業への取組】〈相関がみられた主な項目〉

『国語』

- ◎国語の授業の内容はよく分かる（小学校国語、小学校理科、中学校国語）
- 国語の授業で、目的に応じて説明的な文章を読み、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けている
（小学校国語、小学校算数、小学校理科）

『算数・数学』

- ◎算数・数学の授業の内容はよく分かる（小学校算数、小学校理科、中学校数学）
- ◎算数・数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える（小学校算数、小学校理科、中学校数学）

『理科』

- ◎理科の授業はよく分かる（小学校算数、小学校理科）
- 自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問をもったり問題を見いだしたりすることがある（中学校数学）

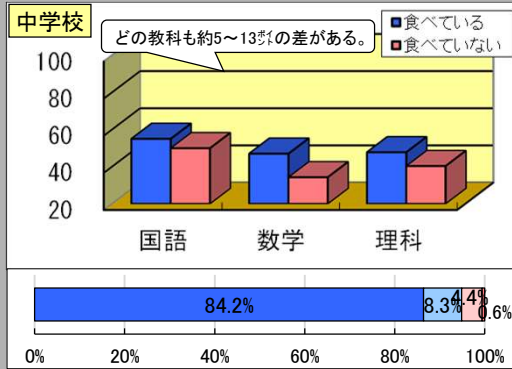
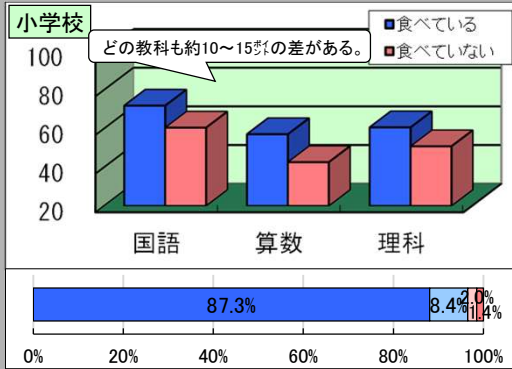
V 学習環境と学力調査とのクロス分析

2 相関

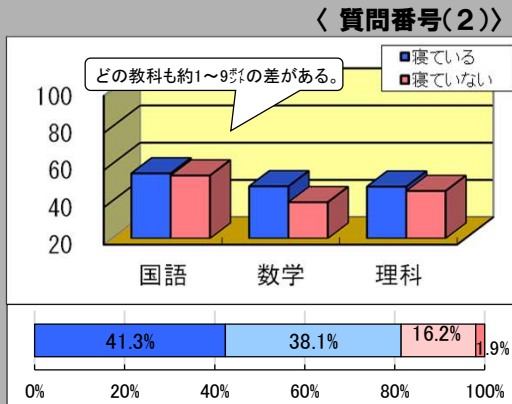
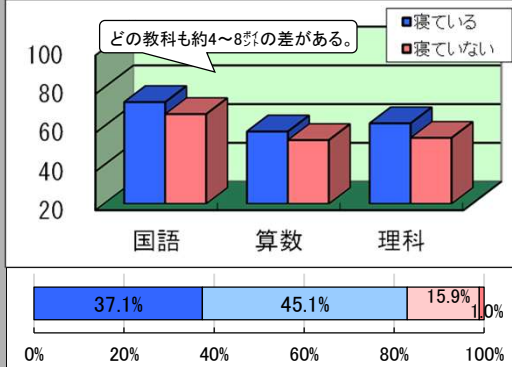
【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)と(あまりあてはまらない+全くあてはまらない)の比較】

【生活習慣等】

【朝食を毎日食べていますか】



【毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか】



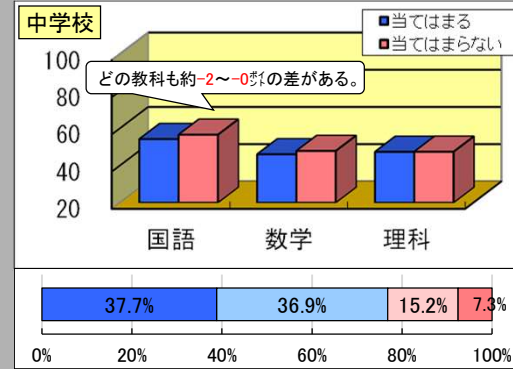
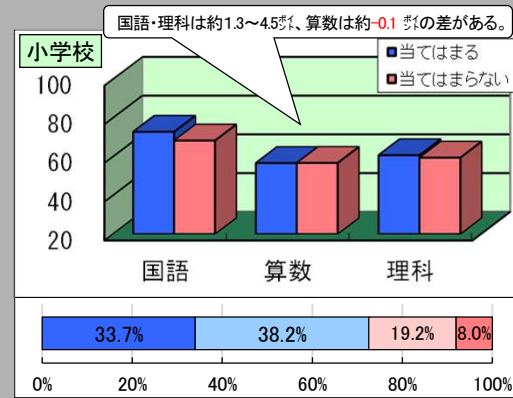
- 「朝食を食べている」に肯定的な回答をした児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。特に算数・数学において相関が顕著である。
- 「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」に肯定的な回答をした児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。特に小学校理科、中学校数学において相関が顕著である。

【資料15】

〈質問番号(1)〉

【自己有用感・規範意識等】

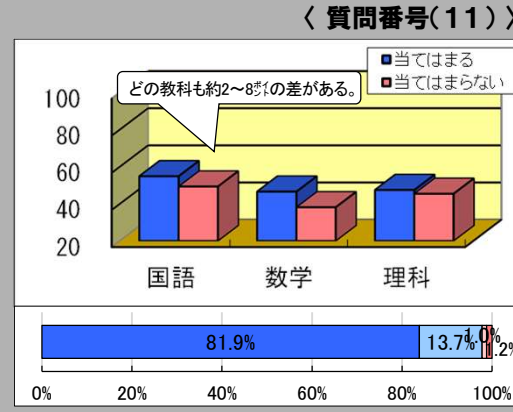
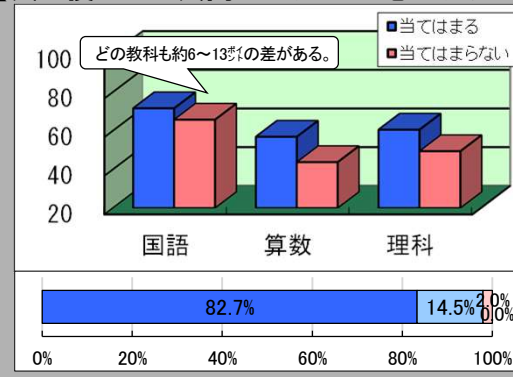
【困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか】



【資料16】

〈質問番号(10)〉

【人の役に立つ人間になりたいと思いますか】



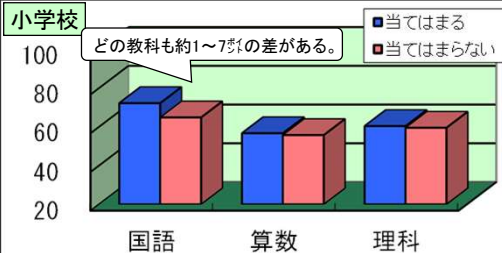
- 「人の役に立つ人間になりたいと思う」に肯定的な回答をした児童生徒のグループの方が、小・中学校共に、どの教科においても平均正答率が高い。特に小学校算数、小学校理科、中学校数学において相関が顕著である。

V 学習環境と学力調査とのクロス分析

【（あてはまる+どちらかといえばあてはまる）と（あまりあてはまらない+全くあてはまらない）の比較】

【自己有用感、規範意識等】

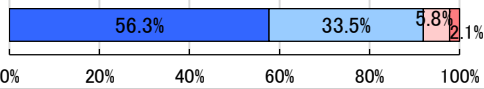
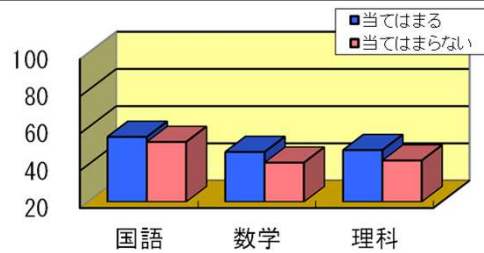
【学校に行くのは楽しいと思いますか】



児童生徒数の割合 ■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

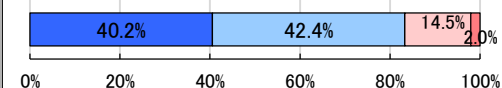
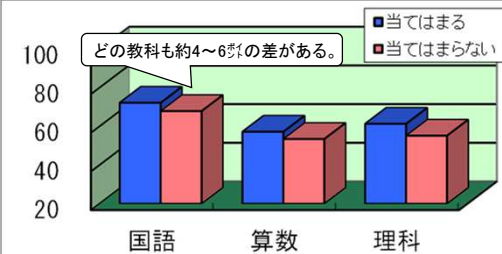
【資料17】

〈質問番号(12)〉

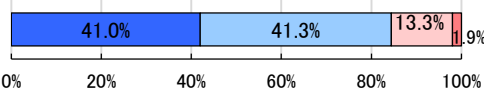
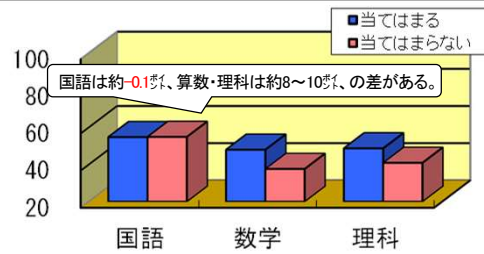


【自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか】

〈質問番号(17)〉



児童生徒数の割合 ■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



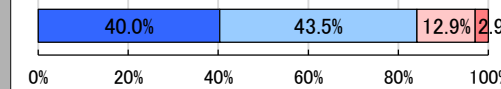
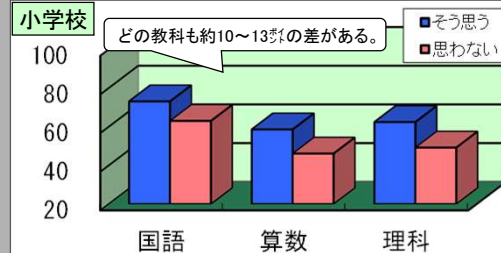
- 「学校に行くのは楽しい」に肯定的な回答をした児童生徒のグループの方が、特に小学校国語、中学校数学、中学校理科において平均正答率が高い。
- 「自分と違う意見について考えるのは楽しい」に肯定的な回答をした児童生徒のグループの方が、特に小学校理科や中学校数学、中学校理科において平均正答率が高い。

【ICTを活用した学習】

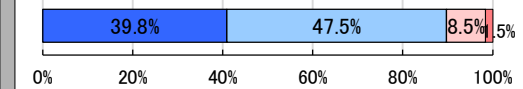
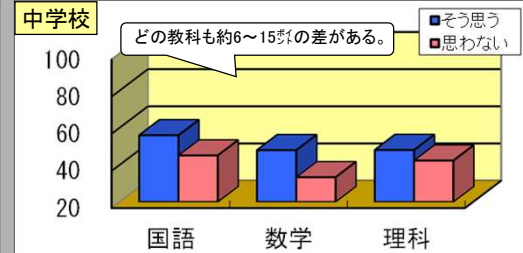
【資料18】

「あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができると感じますか」

〈質問番号(29-1)〉

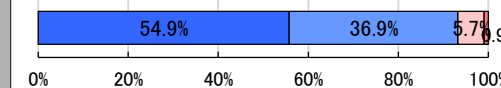
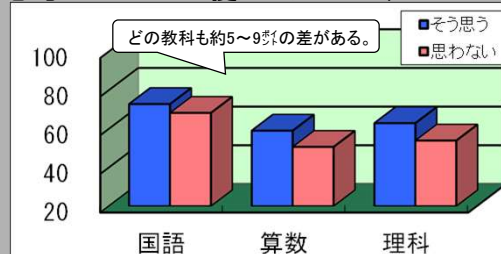


児童生徒数の割合 ■ とてもそう思う ■ そう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない

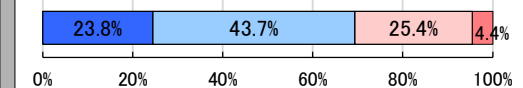
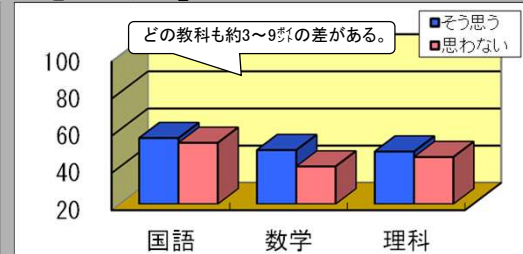


「あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると感じますか」

〈質問番号(29-3)〉



児童生徒数の割合 ■ とてもそう思う ■ そう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない

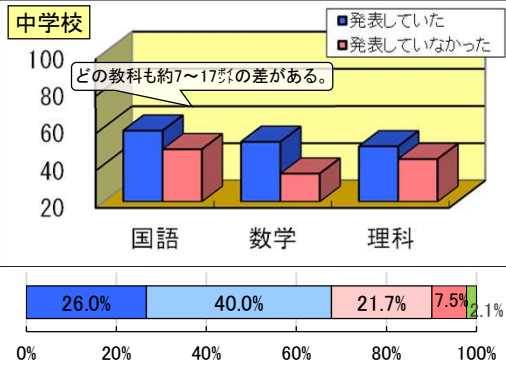
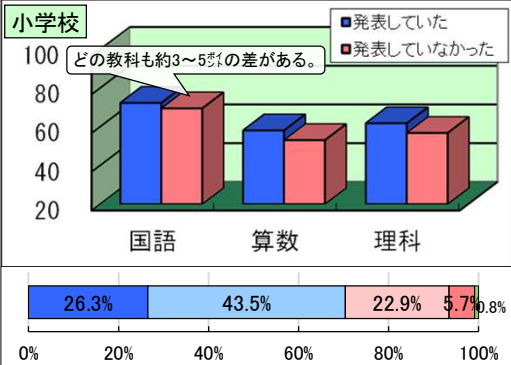


- ICT機器を使って「文章を作成することができる」「情報を整理することができる」に肯定的な回答をした児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。特に、小学校においてその傾向が顕著である。

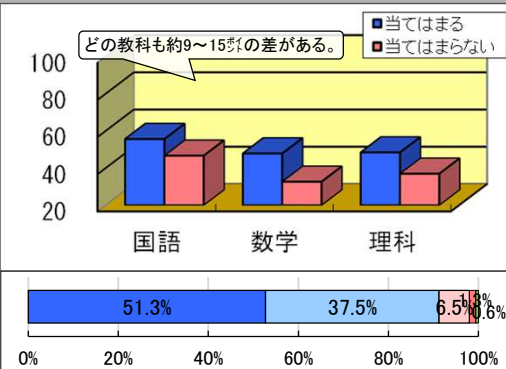
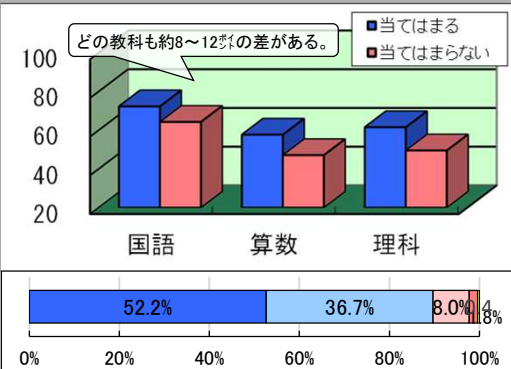
V 学習環境と学力調査とのクロス分析

【主体的・対話的で深い学び】

【自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や組み立てなどを工夫して発表していましたか】
 〈質問番号(31)〉



【友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができますか】
 〈質問番号(35)〉



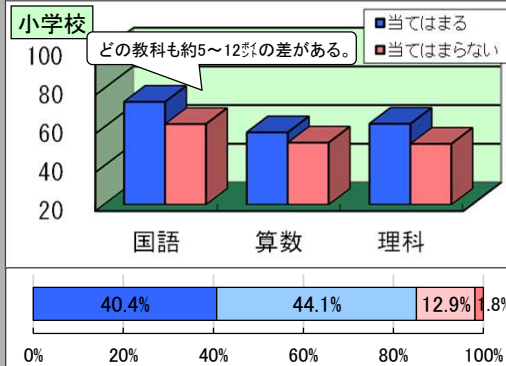
○昨年度までの授業において、「主体的・対話的で深い学び」を実感する経験があると肯定的な回答をした児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。

【資料19】

【学習に対する興味・関心や授業の理解度等】

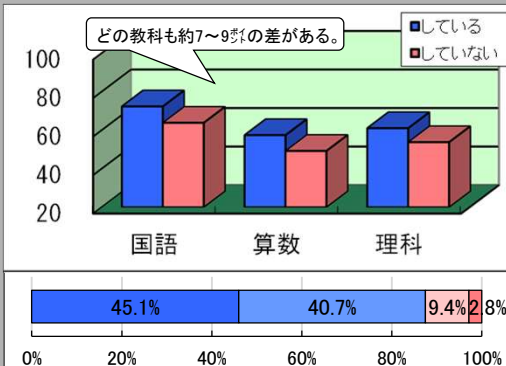
〈国語〉

【国語の授業の内容はよくわかりますか】



児童生徒数の割合 ■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

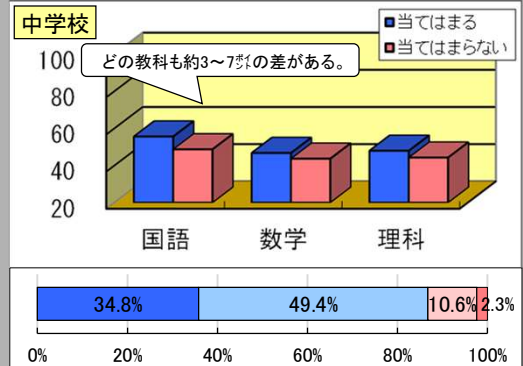
【国語の授業で、目的に応じて説明的な文章を読み、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けていますか】



児童生徒数の割合 ■ よくしている ■ どちらかといえば、している ■ あまりしていない ■ していない

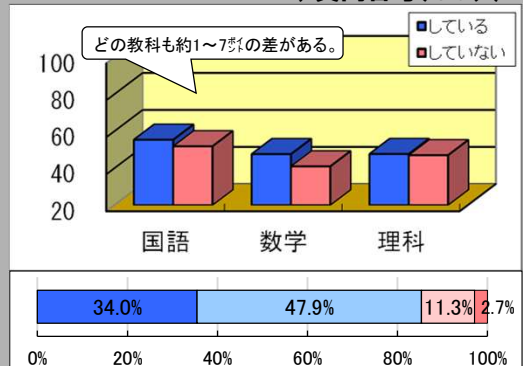
【資料20】

〈質問番号(46)〉



児童生徒数の割合 ■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

【国語の授業で、文章を読み、その文章の構成や展開に、どのような効果があるのかについて、根拠を明確にして考えていますか】



児童生徒数の割合 ■ よくしている ■ どちらかといえば、している ■ あまりしていない ■ していない

○「国語の授業の内容はよく分かる」に肯定的な回答をした児童生徒の方が、どの教科においても平均正答率が高い。
 ○「国語の授業で、目的に応じて説明的な文章を読み、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けている」に肯定的な回答をした児童のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。

V 学習環境と学力調査とのクロス分析

【学習に対する興味・関心や授業の理解度等】

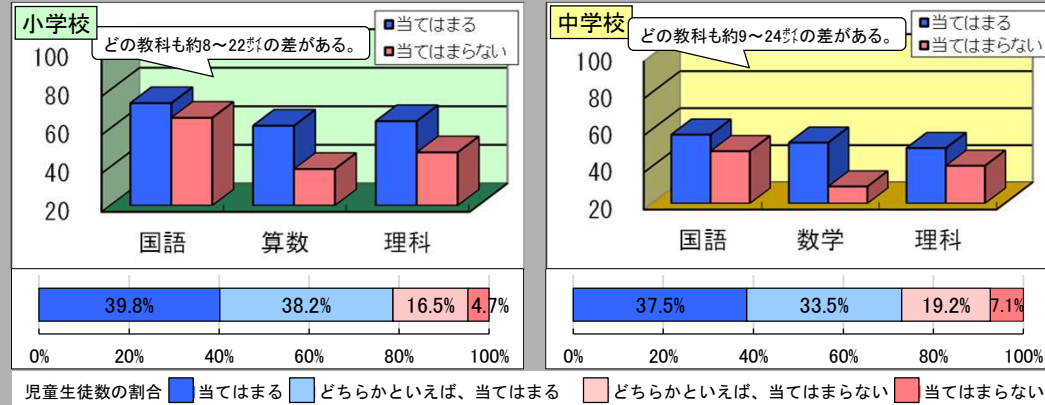
【（あてはまる+どちらかといえばあてはまる）と（あまりあてはまらない+全くあてはまらない）の比較】

〈算数・数学〉

【資料21】

【算数・数学の授業の内容はよく分かりますか】

〈質問番号(54)〉

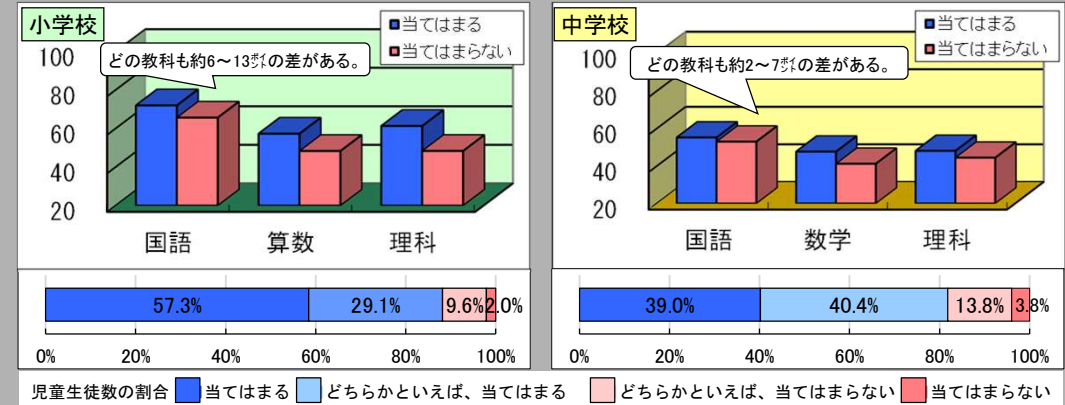


〈理科〉

【資料22】

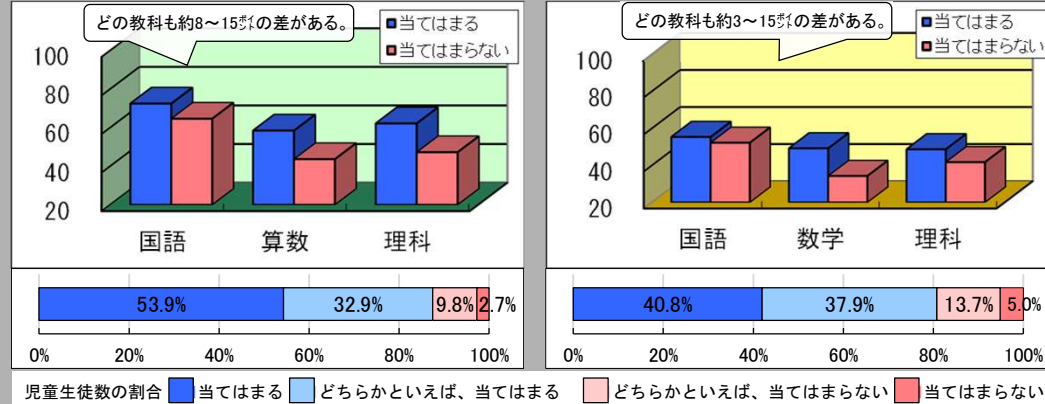
【理科の授業の内容はよく分かりますか】

〈質問番号(62)〉



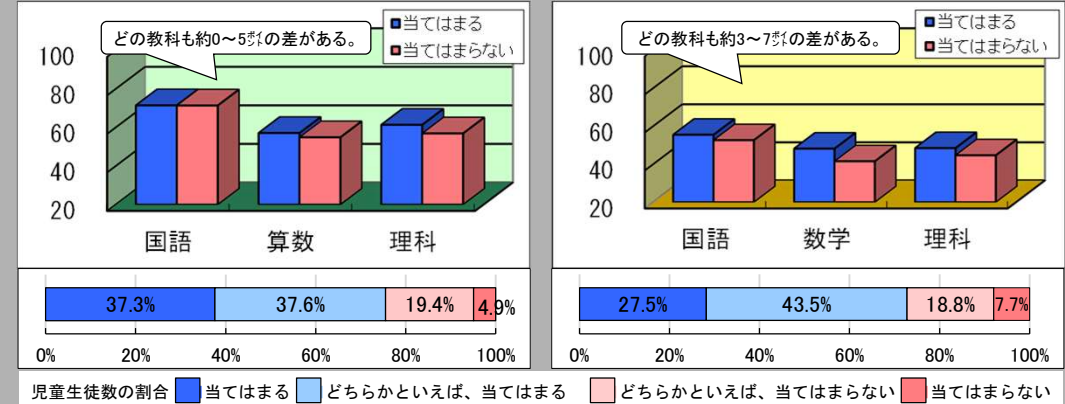
【算数・数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか】

〈質問番号(57)〉



【自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりすることがありますか】

〈質問番号(小-66、中-67)〉



○ 「算数・数学の授業の内容がよく分かる」「算数・数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える」に肯定的な回答をした児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。

○ 「理科の授業はよく分かる」に肯定的な回答をした児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高く、特に小学校でその傾向が顕著である。また、「自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問をもったり問題を見いだしたりすることがある」においては、中学校の方が平均正答率がやや高い。

VI 学校質問紙調査の結果

1 概要

- 主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の工夫改善等に関して、小・中学校共に全国及び県の平均を上回っている質問項目が多く、概ね好ましい取組状況にあると捉えている。
- 教育課程の編成、児童生徒の生き方、学び方等に関わる指導、家庭や地域との連携、教職員の研修等に関しても、小・中学校共に全国及び県の平均を上回っている質問項目が多く、各学校は積極的に取り組んでいると捉えている。

2 結果

(1) 学習指導 - 1

※R6年度の状況について回答するもの

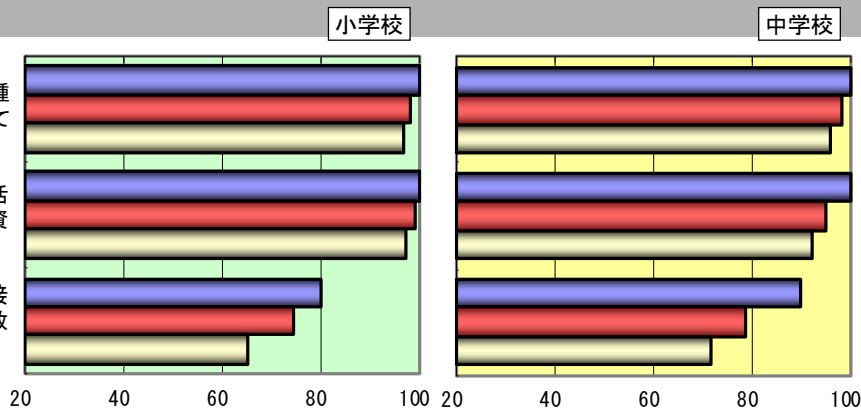
【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】学校質問紙調査結果より

教育課程の編成

児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している

指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせている

近隣等の小・中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行った



【資料23】

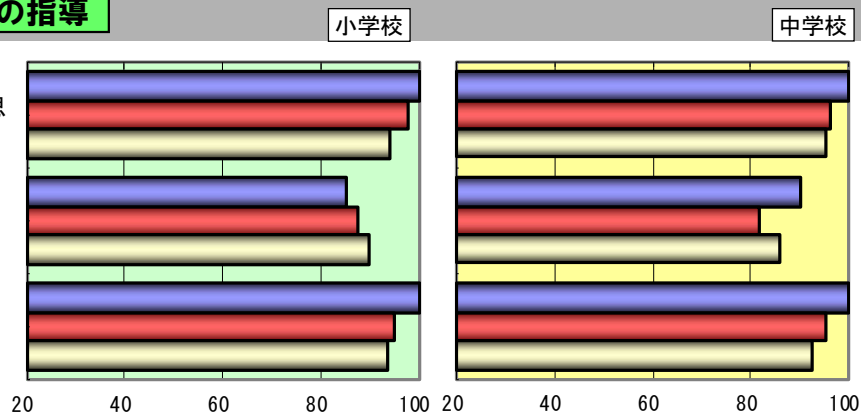
- PDCAサイクルによる教育課程の実施や改善、地域よさや強味を活かした取組においては、全ての小・中学校で行われている。
- 「教育課程に関する共通の取組を行った」の項目は、小・中学校共に全国及び県を大きく上回り、良好な状況である。

自己有用感の醸成、生き方等の指導

児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をした

児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れた

学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童生徒が意思決定できるような指導を行った



- 全ての小・中学校において、多様な考えを出し合うとともに、考えを深め合うための発問や授業の工夫が行われている。
- 課題の設定や、課題の解決に係る学習活動については、小学校で全国や県を下回っている。

VI 学校質問紙調査の結果

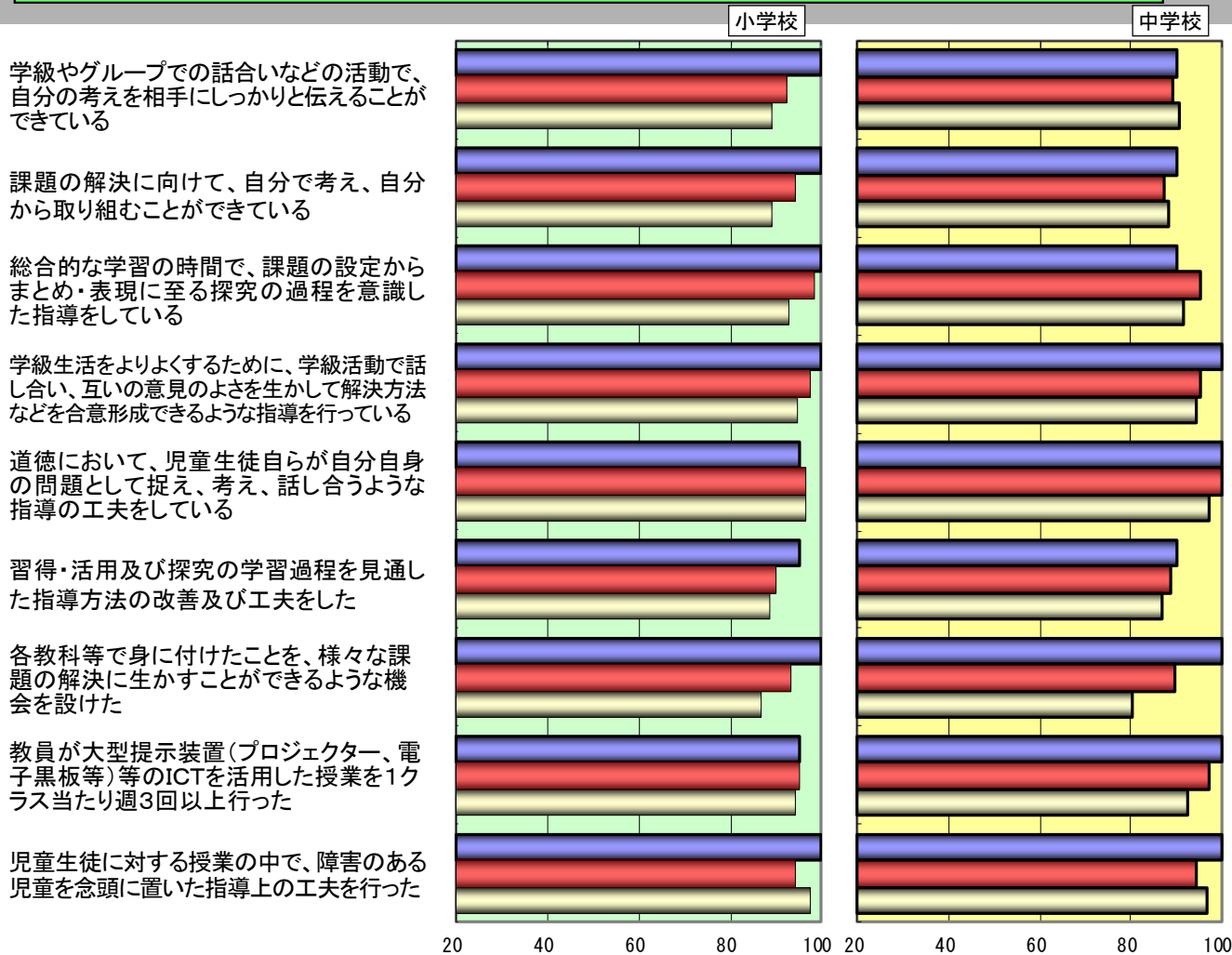
(1) 学習指導－2

※R6年度の状況について回答するもの

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国と比較】学校質問紙調査結果より

学習指導(学習規律の定着、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善、ICTの活用等)

【資料24】



■ 大仙市
■ 秋田県
■ 全国

- 「学級生活をよりよくするために、学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法などを合意形成できるような指導を行っている」「各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた」「児童生徒に対する授業の中で、障害のある児童を念頭に置いた指導上の工夫を行った」において、小・中学校共に100%の肯定的回答である。
- 「学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができる」「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができる」「総合的な学習の時間で、課題の設定から、まとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしている」の肯定的回答が、小学校において100%である。
- 「道徳において、児童生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしている」「教員が大型提示装置(プロジェクター、電子黒板等)等のICTを活用した授業を1クラス当たり週3回以上行った」の肯定的回答が、中学校において100%である。
- 中学校では「総合的な学習の時間で、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしている」が全国や県を下回っている。

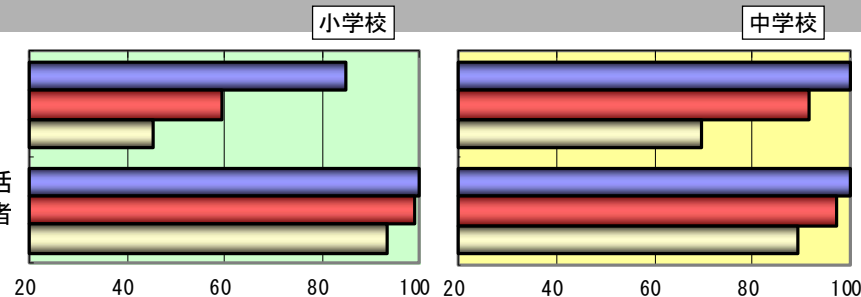
VI 学校質問紙調査の結果

(3) 交流と連携

家庭や地域との連携

職場見学や職場体験を行っている

コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まった



【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】学校質問紙調査結果より

【資料25】

○小・中学校共に「コミュニティ・スクールや地域学校共同活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まった」の肯定的回答が100%である。

(4) 学校の研修体制

教職員の研修等

模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っている

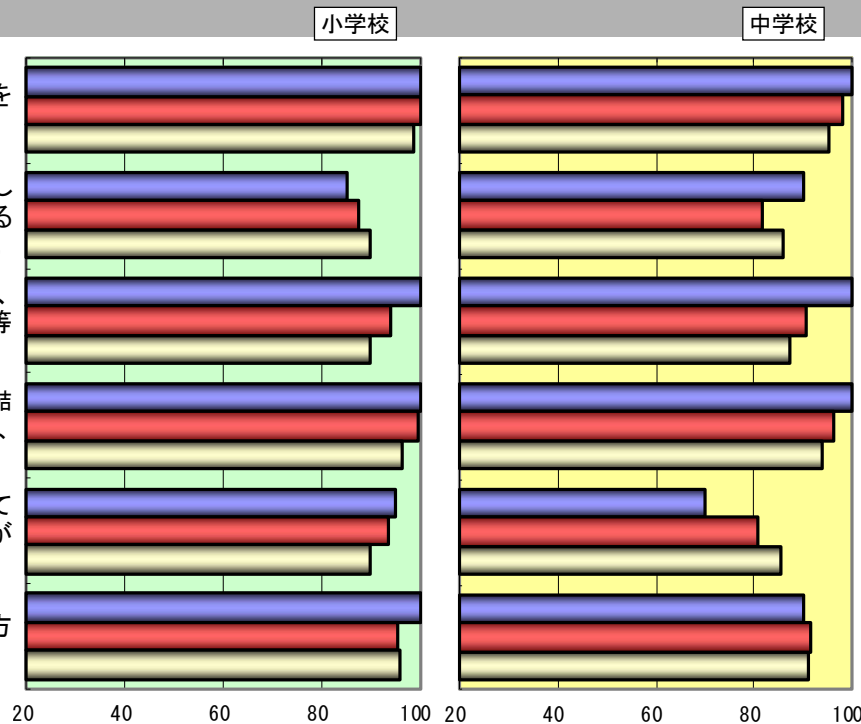
児童生徒自ら学級やグループで課題を設定しその解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っている

個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加している

令和6年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用した

コンピュータなどのICT機器の活用に関して学校内外において十分に必要なサポートが受けられている

教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がある



【資料26】

- 小・中学校共に校内外での研修や学力調査の結果活用による授業改善に積極的に取り組んでいる。
- 「児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っている」項目が、中学校では全国や県を大きく上回っている。
- 一方で、小学校では「児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っている」項目が、全国や県を下回っている。
- 「コンピュータなどのICT機器の活用に関して学校内外において十分に必要なサポートが受けられている」の項目が、中学校において全国や県を下回っている。